令和6年4月1日～令和6年2月28日 現在

■事業結果

開館日数	282 日	展覧会	11 件	113 日	23,894 人
来館者総数	46,574 人	ワークショップ・講座	17 件	34 日	2,372 人
（前年度	46,332 人）	貸しギャラリー	18 件	93 日	12,596 人
		その他利用			7,712 人

■事業内訳

展覧会

	令和6年度予定		実施状況 （予定は除く）		
	件数	日数	件数	日数	人数
企画展	6 件	76 日	5 件	76 日	7,380 人
共催展	6 件	37 日	6 件	37 日	16,514 人
その他事業	0 件	0 日	0 件	0 日	0 人
計	12 件	113 日	11 件	113 日	23,894 人

ワークショップ講座

	令和6年度予定		実施状況 （予定は除く）		
	件数	日数	件数	日数	人数
ワークショップ	9 件	23 日	9 件	23 日	2,015 人
鑑賞講座	1 件	1 日	1 件	1 日	96 人
実技講座	2 件	2 日	2 件	2 日	39 人
企画展関連	5 件	8 日	5 件	8 日	222 人
計	17 件	34 日	17 件	34 日	2,372 人

貸しギャラリー

	令和6年度予定		実施状況 （予定は除く）		
	件数	日数	件数	日数	人数
展示室A	11 件	65 日	11 件	65 日	10,272 人
展示室B	4 件	16 日	3 件	11 日	804 人
スタジオ	4 件	17 日	4 件	17 日	1,520 人
計	19 件	98 日	18 件	93 日	12,596 人

■展覧会内訳

	事業名	開催日数	会期	来館者数
	企画展			
1	旅する絵画	9 日	6月8日 ～ 6月18日	650 人
2	AIUEO Exhibition「KURU PIKA WAKU」	26 日	7月20日 ～ 8月18日	1,173 人
3	吉田有紀展　光の像(かたち)-おもちゃカラー-	10 日	8月22日 ～ 9月1日	713 人
4	旧田中家住宅-川口の商家の贅と茶の文化-	21 日	10月12日 ～ 11月4日	3,187 人
5	アートな年賀状展2025	10 日	1月9日 ～ 1月19日	1,657 人
		76 日		7,380 人
	共催展・連携事業			
1	川口市小・中・高校硬筆展覧会	5 日	7月3日 ～ 7月7日	6,335 人
2	令和5年度(第31回)水道ポスターコンクール展示会	5 日	9月4日 ～ 9月8日	367 人
3	川口市特別支援学級合同作品展	5 日	12月4日 ～ 12月8日	2,562 人
4	中学生のART CLUB作品展	8 日	1月25日 ～ 2月2日	1,096 人
5	川口市小･中･高校生書きぞめ展覧会	5 日	2月7日 ～ 2月11日	5,018 人
6	川口の図工美術まなび展	9 日	2月15日 ～ 2月24日	1,136 人
		37 日		16,514 人
	合計	113 日		23,894 人

■概要

事業名
　常設展「旅する絵画」

会期
　6月8日(土)　～ 6月18日(火)　(9日間)

開館時間
　10:00 ～ 18:00

観覧料
　無料

来館者数
　650人（目標　1,000人）

内訳)		
	高校生以下	179人
	18～40歳	201人
	41～60歳	184人
	61歳以上	86人

出品作品
・展示室A・B：赤木曠児郎[パリの煙突(A)、パリの煙突(B)]、遊馬賢一[コルド・シュル・シェル風景]、小川游[鎮魂の岬・オシャマップ]、菊池治子[銀盤、廻る、Lesson、翔、翔る]、塗師祥一郎[街、赤煉瓦]、森敬介[分水門のある街(仏)、崖に立つ協会(西)、閑寂の家並み(伊)]、守屋順吉[尼僧]、吉岡正人[光降る地まで] 計16点の作品展示

■目的、ねらい、効果・課題等

目的
・市所蔵のコレクション作品を”旅”という切り口で紹介し、コレクションの新たな魅力を創出する。
・川口市伝統の盆栽を展示し、昨年の企画展覧会と同様にアートとしての盆栽の魅力を発信する。

ねらい
①市所蔵作品の新たな魅力を発見する機会を提供する。
②”旅する絵画”と題して、フランスやスペイン、アジアの風景をテーマにした作品を選んだ。梅雨時期に外出が気軽にできない中、絵を見て旅する気分を味わってもらう。
③川口や埼玉に所縁のある作家、川口の盆栽師の作品を鑑賞し、地域への愛着を醸成すること。

効果など
・来館者が川口市にゆかりのある所蔵コレクションを知る機会が増えた。
・地域にゆかりのある作家や、ものづくりのまち川口を象徴する盆栽を展示することで、来館者は今日まで受け継がれてきた、市独自の文化を知る機会となった。
・菊池治子の「銀盤」他4点の作品を一堂に展示したのは初めてであった。来館者より「5枚並んだ作品を見れて綺麗だった」とコメントがあった。
・無料の展覧会で、気軽に立ち寄れると好意的な意見が多かった。施設利用のない時期に開催することで、恒常的な来館者獲得に繋がった。

■概要

事業名
AIUEO Exhibition「KURU PIKA WAKU」

会期
7月20日（土）　～ 8月18日（日）　　（26日間）

開館時間
10:00 ～ 18:00

観覧料
一般：500円 学生：300円 中学生以下・障がい者：無料

来館者数
1,173人　　（目標　3,000人）
内訳）　高校生以下　　484人
　　18～40歳　　453人
　　41～60歳　　204人
　　61歳以上　　32人

出品作品
「くるくる合わせ絵」「絵しりとり」「おもしろつなぎ絵」などの原画と、これらを元にした体験型の立体作品やブランケット。
過去作品（雑貨）とその原画やアイデアスケッチを、デザイナーのアトリエを再現した小屋やその周囲に多数展示。

■目的、ねらい、効果・課題等

目的
日本、そして台湾・韓国などアジアでも人気が高まっているデザイナーグループAIUEOの展示を通して、日本が世界に誇る「KAKWAIIカルチャー」の魅力を紹介する。見る人をワクワク・楽しい気持ちにさせるAIUEOのデザインにはどんなこだわりや工夫、しかけがあるのか。遊び心あふれるキャラクターやアイデアが形になるまでの過程と、デザイナーの豊かな発想を親しみやすい形で紹介し、その魅力を伝える。

ねらい
①体験型作品やアトリエの再現展示を通して、AIUEOのデザインの魅力やアイデアが形になるまでの過程を楽しみながら学ぶ機会を提供する。②制作意図や発想の原点、日用品にアート的表現を持ち込んだ経緯など、デザイナーの思考を伝える。今日までのAIUEOの活動を紹介することで、かわいい日用品で生活を彩る楽しさやプロダクトにこめられたこだわりを再発見する。
③若年層に支持されるデザイナーの展覧会を開催することで、20代～40代の来場者の増加に繋げる。

効果など
・ブロックを回して絵柄の組合せを変えて遊べる体験型作品「くるくる絵合わせ」や216枚からなる絵しりとり、遊び心が細部に盛り込まれたアイデアスケッチなどを展示。絵合わせの多様な組合せを楽しんだり、アイデアスケッチを細部までじっくりと鑑賞する来場者も多く、デザイナーの豊かな発想に親しむ機会となった。
・作品は質・量ともに充実していたが、制作プロセスやデザインコンセプトの解説が少なく、来場者へ企画意図が伝わりづらい部分があった。
・来場者アンケートでは回答者の80%が10代～40代の若年層、アトリアに初めて訪れた割合も60%という結果になり、新たな客層の獲得に向けた可能性のある展示となった。一方で来場者の目標人数は下回る結果となった。猛暑による外出控えのほか、作品や広報物の制作遅延による広報の遅れが原因として考えられるため、今後は無理のない展示プランや制作スケジュールを計画する。

■概要

事業名
　吉田有紀展 光の像(かたち) –おもちゃカラー–

会期
　8月22日(木)　～ 9月1日(日)　　(10日間)

開館時間
　10:00 ～ 18:00

観覧料
　無料

来館者数
　713人　　(目標　1,000人)
　内訳)　高校生以下　　98人
　　18～40歳　　252人
　　41～60歳　　263人
　　61歳以上　　100人

出品作品
　吉田有紀制作のインスタレーション作品3点とシリーズ作品17点。

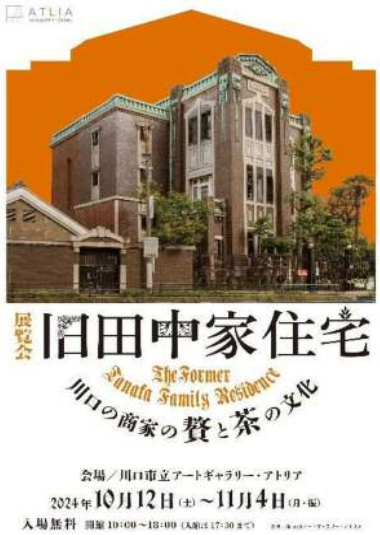
■目的、ねらい、効果・課題等

目的
　独特な抽象表現が高く評価されている現代美術家の吉田有紀は、国内外のホテルなどのパブリックアートも多く手がけている。吉田が近年取り組む六角形のシリーズ作品を中心に、現代美術を味わう。

ねらい
　①現代美術、特に抽象表現は一般的には市民に浸透するのに鑑賞経験を積み重ねる必要があるが、作家が会期中に作品解説を行うことで、抽象美術への理解と親しみを感じてもらう。
　②埼玉県立近代美術館にて開催している吉田有紀の父、吉田克朗の展示と展示期間を合わせることにより、両館の地域連携を図る。それとともに来館者には抽象的な表現への理解をより深めてもらう。

効果など
　・埼玉県立近代美術館の吉田克朗展に合わせた開催ということで、鑑賞者の往来があり、地域美術施設としてアトリアをアピールすることができた。
　・10代の鑑賞者が割合としては多く、若い世代にアピールする機会となったことは良い点である。また、アンケートには表れていないが、哲学や美術に造形の深い高校生の来館者があり、本展に深く感動した様子だった。こうした人を一人でも多く作っていきたいと思う出来事だった。
　・本展では作家が会期中ほぼ毎日作品の解説をしてくれていたが、こうした小まめな対応で、抽象表現などの難解な作品も心理的距離を縮めることができると感じた。
　・本展は、吉田克朗展と重なる日程を確保する必要があり、会期のタイミングが重要なファクターではあったが、スケジュールや予算確保の面では不十分であったと言わざるを得ない。アトリアの指定管理者となり2年目の本年なスケジュールと予算を確保する必要性を感じた。

■概要



事業名
　旧田中家住宅−川口の商家の贅と茶の文化−

会期
　10月12日(土)　～　11月4日(月・祝)　(21日間)

開館時間
　10:00 ～ 18:00

観覧料
　無料

来館者数
　3,187人　　(目標　3,000人)
　内訳)　高校生以下　　464人
　　18～40歳　　928人
　　41～60歳　　1,303人
　　61歳以上　　492人

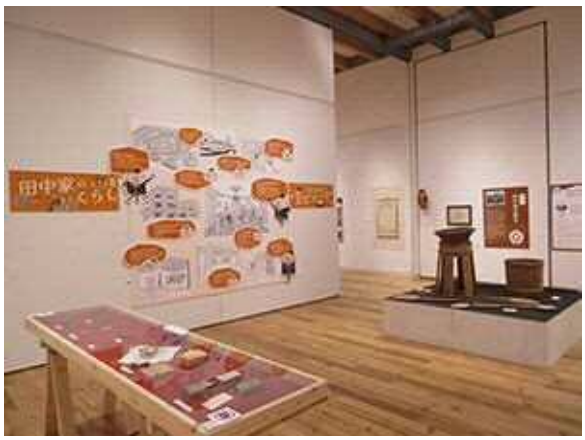
出品作品
　展示の解説パネル合計51枚(1章：旧田中家住宅や建築の特徴の紹介パネル18枚。2章：田中家の紹介パネル3枚。3章：活用事例紹介パネル5枚。4章：川口の茶道文化紹介パネル9枚。その他田中家のエピソード紹介パネルなど16枚)。田中家ゆかりの調度品・装飾品・味噌づくり道具など約30点。豊平翠仙・翠香・江都作の蒔絵作品16点。川口茶道会会員所蔵の茶道具7点など。

■目的、ねらい、効果・課題等

目的
　旧田中家住宅が長期休館に入る前に、文化財としての価値などを詳しく知ってもらう展示を開催する。また、田中家が川口のお茶文化を育んできたこに着目し、川口市ゆかりの茶道具や蒔絵師の作品を展示する。

ねらい
　①旧田中家住宅の建築の特徴をデザインの面などにも触れながら知ってもらう。
　②旧田中家住宅を知る事により、地域の文化財への関心を高めてもらう。
　③市内で三代続く蒔絵師の作品や、旧田中家住宅をモチーフにした作品、地域ゆかりの作家を紹介する。
　④川口市のお茶文化に関して、旧田中家住宅や錫杖寺がこれまで果たしてきた役割を紹介する。

効果など
　・鑑賞後のアンケートでは「勉強になった」や、「現地に行くより詳しく知ることができた」といった、好意的な意見が寄せられた。
　・展覧会開催中の約3週間の旧田中邸への来館者数は1,131名にのぼった。旧田中家住宅のひと月の来館者で1,000名を超えることは稀であることを踏まえると、より短期間のうちに1,000名を超える来館者数を記録したことは、展示による集客効果が大きかったと言える。
　・地方の新聞やwebニュースで取り上げられた他、来館者のSNS投稿が賑わうなど、注目の高まりを感じられた。
　・貴重な蒔絵作品を16点も一挙に展示する機会に恵まれ、来館者からも見ごたえがあるなどの好意的な意見が寄せられた。
　・文化財課の協力もあり、田中家ゆかりの品々が新たに見つかり、本展で初公開となった。それらを調査する時間が足りなかったが、今度さらなる調査が進み資料の価値が引き出されることを願う。



■概要

事業名
　アートな年賀状展2025

会期
　1月9日(木)　～ 1月19日(日)　（10日間）

開館時間
　10:00 ～ 18:00

観覧料
　無料

来館者数
　1,657人　（目標　1,700人）
　内訳）　高校生以下　483人
　18～40歳　447人
　41～60歳　433人
　61歳以上　294人

出品作品
　公募年賀状作品　373点　（参考:昨年度413点、令和4年度596点　受付期間:11月1日～12月25日必着
　A1サイズの年賀状の形をした体験型クイズ（内容:干支や年賀状文化について）
　地域の昔遊びの紹介として、べーゴマの歴史や形状に関するパネルと干支柄のべーゴマ飾りを展示

■目的、ねらい、効果・課題等

目的
　・子どもから大人まで誰もが気軽に出品する事のできる市民参加型の展覧会を開催する。
　・年賀状の展示を通して、はがき大の作品を作る楽しさや日本の正月文化にふれる機会を提供する。

ねらい
　①応募者全員の年賀状を一堂に展示し、作品の優劣なく出品や鑑賞を楽しめる展覧会をめざす。
　②幅広い年齢層に、暮らしの中に息づく日本の風習と手づくりならではの味わいを伝える。
　③準備期間、人員等、効率的な運営方法を目指す

効果など
　・出品数は前年の413点から373点へと減少した。メールやSNSの普及、郵便料金の値上げが要因と推測される。今年度は新たに近隣の民間学童等に参加を呼びかけたほか、毎年出品している造形教室や福祉施設など幅広い層からの出品があった。出品者やその関係者が鑑賞や記念撮影を楽しみ、市民の作品発表の機会を創出することができた。
　・年賀状型クイズなど関連コンテンツを増やした事で、鑑賞とともに正月文化について楽しみながら学べる展覧会になった。
　・関連イベントとして会期中に福笑いとべーゴマデコレーションのイベントを開催した。前年度よりもイベントの実施日数を増やしたことで、来場者数の増加に繋がり、正月文化や地域に根づく昔遊びについて広く紹介することができた。
　・準備のスケジュール管理が甘く、設営が展覧会前日の閉館後までかかった。次回は事前に出来る作業を早い時期にリストアップし、効率的に準備を進める。

事業名
　第41回川口市小･中･高校硬筆展覧会
会期
　7月3日(月)　～ 7月7日(金)　(5日間)
主催
　川口市教育研究会 書写研究部
出品
　1,256点　／ 市内小･中･高校生
来館者数
　6,335人　(前年度 6,576人)
　内訳) 高校生以下 2,552人　41～60歳　1,987人
　　18～40歳　1,125人　61歳以上　671人

事業名
　川口市水道ポスターコンクール入賞作品展
会期
　9月4日(水)　～ 9月8日(日)　(5日間)
主催
　川口市上下水道局
出品
　62点　／ 市内小学4年生
来館者数
　367人　(前年度 242人)
　内訳) 高校生以下 58人　41～60歳　155人
　　18～40歳　66人　61歳以上　88人

事業名
　第57回川口市特別支援学級合同作品展
会期
　12月4日(水)　～ 12月8日(日)　(5日間)
主催
　川口市立小中学校特別支援学級設置校長会口市教育委員会
出品
　1,387点　／ 市内小学校38校･中学校17校
来館者数
　2,562人　(前年度 2,015人)
　内訳) 高校生以下 1023人　41～60歳　593人
　　18～40歳　701人　61歳以上　245人

事業名
　中学生のART CLUB作品展
会期
　1月25日(土)　～ 2月2日(日)　　(8日間)
主催
　川口市教育委員会
出品
　313点　／ 市内中学校美術系文化部19校
来館者数
　1,096人　(前年度 1,148人)
　内訳) 高校生以下 410人　41～60歳　225人
　　18～40歳　367人　61歳以上　94人

事業名
　川口市小･中･高校生書きぞめ展覧会
会期
　2月6日(木)　～ 2月11日(火)　　(5日間)
主催
　川口市教育研究会 書写研究部
出品
　1,296点　／ 市内小･中･高校生
来館者数
　5,018人　(前年度 5,126人)
　内訳) 高校生以下 1,752人　41～60歳　1,307人
　　18～40歳　1,415人　61歳以上　544人

事業名
　川口の図工美術まなび展
会期
　2月15日(土)　～ 2月24日(月)　　(9日間)
主催
　川口市教育委員会
出品
　158点　／ 市内小･中校生
来館者数
　1,136人　(前年度 832人)
　内訳) 高校生以下 365人　41～60歳　272人
　　18～40歳　378人　61歳以上　121人